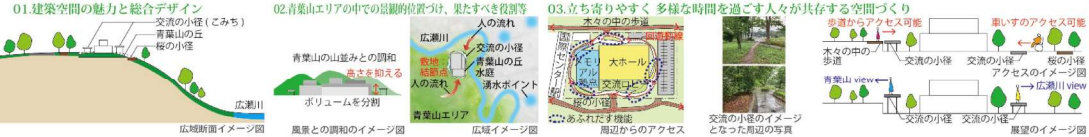
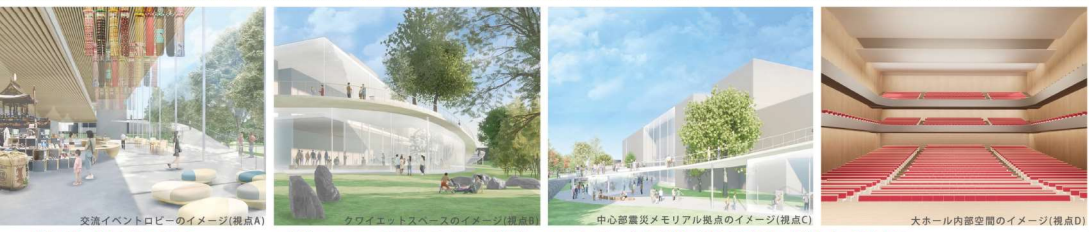


交流の小径と青葉山の丘のある音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点



建物と周辺環境との調和の考え方を示すイメージ



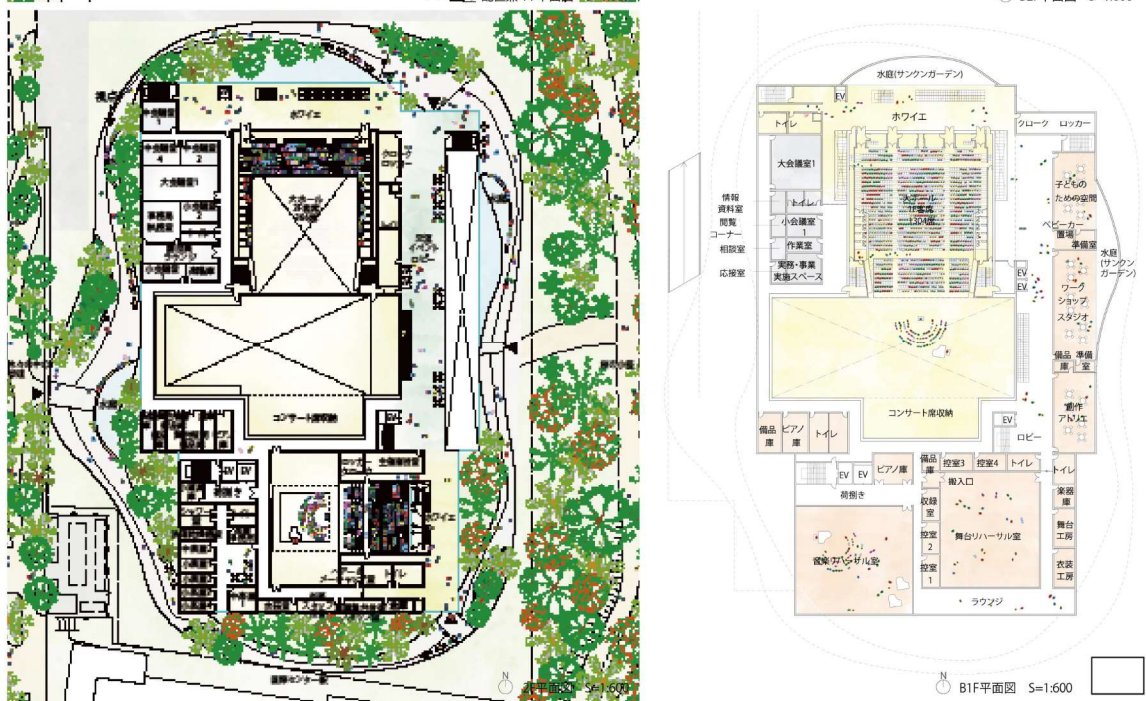
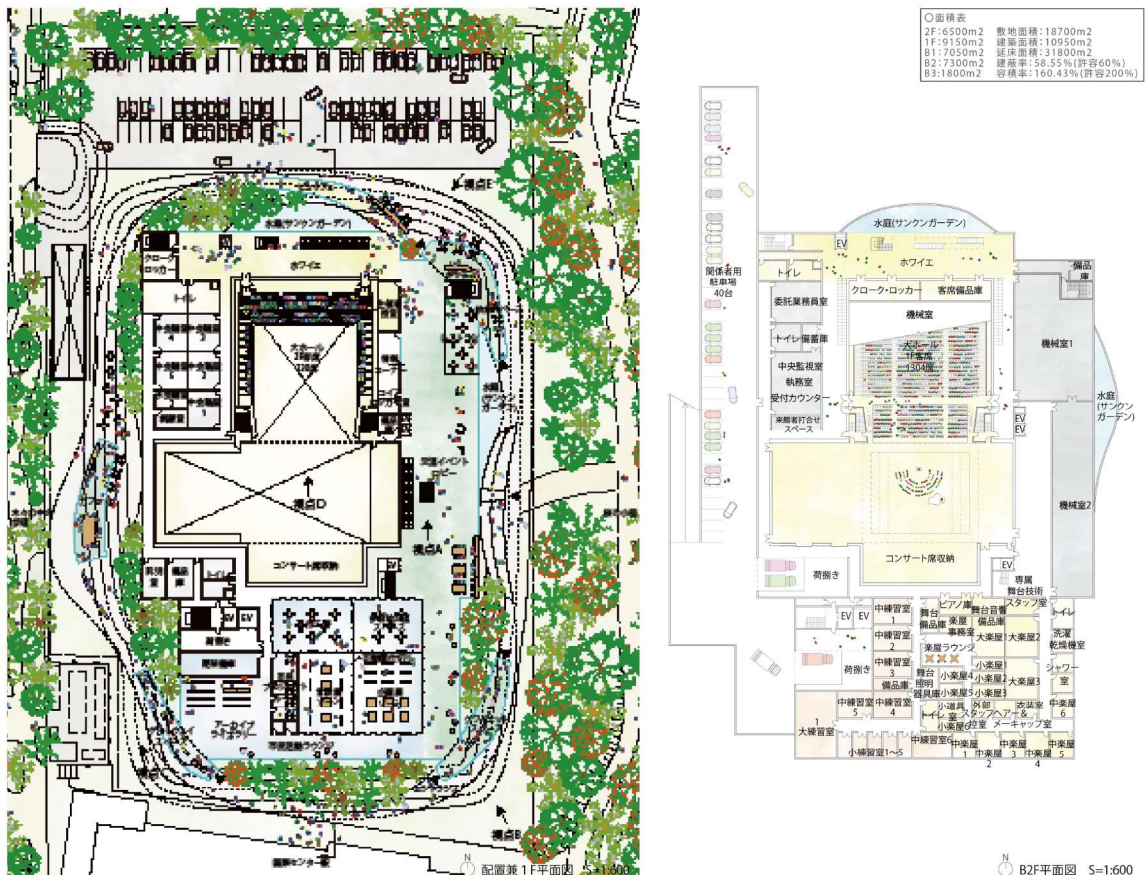
01. 建築空間の魅力と総合デザイン
 交流の小径(こみち) 青葉山の丘 緑の小径
 大きな構成としては、3つの建築ボリュームとし、高さ差を調和。交流の小径が、周辺環境と調和することで、よりヒューマンスケールな建築となり、人々がとって親しめる場を創出します。建物の入り口を分割することで、青葉山の山並みとの調和を図ります。広川の湾岸段丘の地形が生み出した豊富な地下水を地表まで、空調、給排水、灌水、水景に利用した後、再び地下へ降されるという循環機能の一部に建物がかかるように位置付けます。敷地は青葉山と広瀬川の中間点に位置し、青葉山と広瀬川を繋ぐ結節点の役割を果たす建物を目指します。



02. 青葉山エリアの中での景観的位置づけ、果たすべき役割等
 青葉山の山並みとの調和 高さを抑える 緑の小径
 大きな構成としては、3つの建築ボリュームとし、高さ差を調和。交流の小径が、周辺環境と調和することで、よりヒューマンスケールな建築となり、人々がとって親しめる場を創出します。建物の入り口を分割することで、青葉山の山並みとの調和を図ります。広川の湾岸段丘の地形が生み出した豊富な地下水を地表まで、空調、給排水、灌水、水景に利用した後、再び地下へ降されるという循環機能の一部に建物がかかるように位置付けます。敷地は青葉山と広瀬川の中間点に位置し、青葉山と広瀬川を繋ぐ結節点の役割を果たす建物を目指します。



交流の小径の1Fイメージ(視点E)



断面図 S=1:600

断面図 S=1:600